

# 新産業創出に向けての金沢市への提言

令和二年十二月十五日  
一般社団法人 石川県情報システム工業会  
宮内 康範

## 1, はじめに

今回の提言は「金沢市新産業創出ビジョン 2020」に準じる内容としています。また、このビジョンが策定された当時には想定し得なかった新型コロナウイルスによる影響を配慮しています。その上で提言を具体的にするため、石川県情報システム工業会として支援・関与できる事例や提案を含めることも意識しました。

構成は、まず「提言」として市政がリーダーシップととして推進してほしい事項を示しています。その上で提言それぞれについて「石川県情報システム工業会としてできること」を説明しています。

尚、あらかじめご理解いただきたいことは、すでに取り組みが行われているこのビジョンの現状分析の深掘りが、私たちの中で不十分である点です。本来であれば、前述のビジョンに対するこれまでの取組実績、課題や問題点、そして、取組んでこられた市政担当の方々の現状認識を踏まえなければいけませんでした。従いまして、私たちは、今回の提言を今後の皆様との議論のたたき台として活用していただけると期待しています。市より改めてここまでの取組状況を共有させていただき、関係者含めて深い議論につなげていきたいと考えています。

## 2, 提言

価値創造拠点施設の利用と整備の両面を中心に、以下の3点を提言します。

### (1) 価値創造拠点施設の教育的活用

市の新産業創出ビジョンでは「価値創造拠点施設」が重要な役割に位置づけられています。またこの拠点は「新たな価値の創造と子どもたちの独創力の育成を図る」ことが目的の一つとしてあげられています。そしてコロナ禍ということ踏まえれば、金沢市内のあまり広くないエリアに限定した人々が参加する活動を重点に考えるべきでしょう。

以上を踏まえた「価値創造拠点施設」の活用促進として、金沢市内の中高生向けにITとイノベーションの集合活動（以後「IT部活」）が効果的と考えます。

このIT部活の狙いは、新しい価値と産業を創造とイノベーションを目指す次世代の若者を育成することです。そのため生徒たちの創造性やチャレンジ精神を育てていくことに主眼をおきます。

ここで生徒たちが学んでいくべきことは、手段としてのIT技術のみならず、自らの創造した価値を市場に送り出すために必要とされる、経済の原理、ビジネスを考えるときに理解すべきIPなどの法規、金融工学、初等会計の基礎、それらを伝えるプレゼンテーションスキル、更にはチャレンジングなマインドセットです。

この部活動を通じて生徒たちは、自分のアイデアを人に伝え、ステークホルダーを巻き込んで動かすことができるようになり、将来のイノベータ・新産業創出の担い手としてのセンスと経験が磨かれることになるでしょう。

尚、施設そのものに対しては、現時点で施設全体を統制する組織体制等がよく見えておりませんが、これらの確定を急ぐ必要があると推測しています。

### (2) ITクラウドサービスの活用

次は、積極的なクラウド技術などITサービスを活用していくべきとの提言です。

企業のビジネスに必要な不可欠なITサービスについて、これまではITサービスを「所有」する運用（オンプレミス型）が主流でした。しかし、大きく変化するビジネス環境やIT人材不足、年々高度化・複雑化するセキュリティ問題など背景に、ITサービスを「利用」する運用（クラウド型）

が近年増加しています。クラウド型の運用は、変化への柔軟な対応力や最新の技術を容易に取り入れることができるため、DXの早期実現に不可欠なものです。

### (3) IT 通信インフラの強化

創造拠点のIoT推進のため、5Gエリア化などの通信インフラを強化すべきと考えます。

5Gが普及することで、さまざまなモノがネットワークに接続され、生活のあらゆる場面で高速な通信が行われると予測されています。これまでの技術が大きく進歩し、新しいサービスや商品の開発など産業の活性化につながり、IoTやAI、ビッグデータなどと5Gを組み合わせ、医療現場でのロボットによる遠隔手術や、顔認証での支払いや自動運転が当たり前になるなど、より便利かつ快適な社会の実現に繋がっていきます。

「価値創造拠点施設」の活用促進として、地場企業やスタートアップ企業などの産業創出に寄与すべく、5Gエリア環境が整う「価値創造拠点施設」において、5Gを利用した新しいサービス、商品などの実証の場として活用することを提言します。

## 3, 石川県情報システム工業会としてできること

### (1) IT部活の運営

IT部活の提言に対し、石川県情報システム工業会は、これまでのプログラミング教育で金沢市と連携してきた実績を活かした活動で支援いたします。例えばIT部活の部長役は石川県情報システム工業会が担い、部活の講師も同会員企業から募り、AI、IoT関連の学習はもとより新産業の創出につながるテーマを複数選定し、コンセプト検証などを目指すカリキュラムを市と共に考えていきます。

新しい産業やビジネスを起こすことを狙った企業社内の活性化活動や共創活動は、当協会の会員企業でも活発に行われています。これらの経験や知見、あるいはスタートアップ支援企業とのつながりを活かし、学生向けのプログラムに適用してゆくことが可能です。

また後述の通り Azure Kanazawa Base を同拠点とうまく連携していくことも考えます。Azure base は IT 開発において日本マイクロソフト株式会社などから技術的な支援を得ることができるほか、全国に活動拠点とネットワークで繋がっていることに特色があります。これを活かして、例え

ば拠点間をつなげて全国で同じような趣旨で活動する同年代のグループ・部活動や、最前線の専門家との交流をオンラインで推進し、知識と経験、そしてマインドの育成を図っていけるものと思います。

もちろん課題はあります。最大の課題は生徒のモチベーションの維持だと考えています。活動中はもとより、活動を終えたあとも、生徒たちに将来のビジョンや希望を抱かせるための方策は必要です。今回アドバイザーとして囑託された各界の有識者の知恵もお借りしつつ工夫していく必要があると認識しています。

## (2) Azure Kanazawa Base の活用

提言で述べた IT クラウドの活用として、Azure Kanazawa Base の活用を検討・推進します。

Azure Base は、世界 3 大クラウドの一つである日本マイクロソフトが提供するクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」を活用し、顧客の DX 実現を支援する新しい取り組みです。“Base = 発信基地”として、代官山をフラッグシップとする物理拠点を全国に展開しており、北陸では唯一、金沢市内に「Azure Kanazawa Base」が設置されています。Azure Kanazawa Base では、日本マイクロソフトのエンジニアに直接技術相談が行えるほか、各種セミナーやハンズオンによる DX 人材の育成、また北陸地域における Azure を活用した各種取り組み事例、製品サービスを全国に発信予定で、より身近にクラウドの普及を図る拠点と位置付けられています。

Azure Kanazawa Base は、先日締結された金沢市、日本マイクロソフト株式会社、株式会社システムサポートの連携協定に基づいて設置されています。連携協定は、Azure Kanazawa Base の活用などにより、新ビジネス・サービスの創出を推進し、地方における IT 都市化の実現を目的としています。具体的な適用分野としては、前述の「値創造拠点施設」を活用した中高校生向け情報技術の部活、および「3 密対策など金沢市民サービス向けの Azure を活用したサービスの実証実験の場として活用する」などが考えられます。

## (3) 第 5 世代移動通信システム (5G)

提言で述べた IT 通信インフラの強化として、石川県情報システム工業会は第 5 世代移動通信システムの整備を推進します。

第 5 世代移動通信システム (5G) は、「高速・大容量」「低遅延」「多数接続」の 3 つの特徴があります。

「高速大容量」では、高速で大きなデータの送受信が可能になることで、さまざまな視点からの映像を選択できるマルチアングル視聴やVRのような臨場感のある3D映像など、大容量データの通信を必要とするストリーミング映像サービスが実現可能となります。

「低遅延」では、リアルタイム性の高いゲームをプレイする際やロボットや機械などの遠隔操作の際に問題となる遅延を解消することで、離れた場所同士でもリアルタイム性の高いやりとりができるようになります。

「多接続」では、家庭にある数多くの家電やセンサー類までもネットワークにつながります。たとえば、朝起きたら自動でカーテンが開き、コーヒーが注がれる。また外出時も帰宅時間を察知して、空調のコントロールやお風呂の準備なども実現可能です。家の中や外での行動に合わせて快適な生活が送れるスマートホームも実現できます。

5Gの普及により、新たな産業の創出、より便利かつ快適な社会が実現されていくと言われています。

## 4, 終わりに

今回は価値創造拠点の活用を中心に提言いたしました。今後は各アドバイザーの方々のご提案やご意見も踏まえて議論を深め、第四次産業革命における金沢市の象徴的な施設となるよういっしょに考えて参りたいと思います。つきましては最初に述べたように、市新産業創出ビジョンの実施状況と成果、課題、問題点など、市からの情報共有をぜひお願いいたします。

尚、この拠点施設に対して、石川県情報システム工業会としては、IT設備の整備とその利活用の協力は惜しむものではありませんが、まず、金沢市が先頭に立って、新産業創出や価値創造拠点の施策をリードしていただきたいとも思っております。また、本提言に限らず、各アドバイザー皆様からのご提言も含めて、金沢市政としてしっかりとしたリーダーシップを取って推進されることが必須条件であることもあらためて付け加えさせていただきます。

以上